



蟹の仲間

北斎は、ひとつの画面に百匹を超える蟹の仲間を描いた。多様な絵画技法を駆使し、細部まで写実的に描き出している。どの蟹も生き生きとして目が黒く輝いており、こちらをじっと見つめているかのようだ。海藻は淡い色合いで描かれ、水中の情景を思わせる。一方で、蟹の甲羅全体を描くのは、真上から見下ろすような構図だ。見どころは、まるで実物を見ているかのような表現力、遊び心に満ちた構図、そして卓越した筆致。いずれも、北斎の自然主題の他作品にも共通する特徴である。この傑作は、1900年にアーネスト・フェノロサの尽力により東京で開催された北斎展で展示され、その2年後にチャールズ・ラング・フリーアが購入した。

Yonemura, Ann. "Crustaceans." In *Hokusai*, 145. Washington, D.C.: Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Smithsonian Institution, 2006. (アン・ヨネムラ著 「甲殻類」 『北斎』 p.145 フリーア・ギャラリー、アーサー・M・サックラー・ギャラリー スミソニアン協会 2006年)



葛飾北斎 《群蟹図》(部分) 国立アジア美術館 フリーア・ギャラリー